

★ 特別企画：タイルの魅力を未来へ ★

インタビュー

子どもたちが憧れる業界を目指して 想いを一つに

タイルの祭典「CERASTA2024」からみえる業界の未来

8月30日、31日の2日間、大阪市中央公会堂を会場にタイルの祭典「CERASTA2024」が開催された。テーマは「タイルに関わる仕事に夢をもたせて、子供たちのなりた職業とすること」、いかにしてタイルの魅力を伝え、次代へと繋げていくのか。

本稿ではCERASTA2024の企画運営にあたり中心として活動を進めた実行委員会会長の東弘毅氏(株)三国タイル代表取締役)と発起人で事務局の島津範子氏(株)三国タイル)、デザイン部部長の吉永美帆子氏(Euclid)、また総合ディレクターを務めた白石普氏(Euclid)に本祭典の企画運営とイベントのようす、今後の展望などについて話を伺った。(編集部)



▲お話を伺った実行委員会会長の東弘毅氏、発起人の島津範子氏、総合ディレクターの白石普氏、デザイン部部長の吉永美帆子氏、(左より)

業界の垣根を越えたイベントを

——CERASTA開催の経緯について教えてください

東：施工単価も下がり、職人の高齢化も進む中で、タイル業界がしぼんでいくという危機感は皆が感じていて、大阪タイル協同組合としても何か手を打たねばならない。ただ、何をすれば良いのか具体的な案が見つからないという状況でした。そんなとき当社の島津から白石さんに講演のオファーをしたらどうかとの話がありました。

島津：タイルの卸会社である三国タイルに勤務してからカタログを見る機会が増え、タイルの魅力に惹かれていきました。一方、現場勤務でお客様にタイルのイメージを伺うと、依然としてお風呂やトイレ、キッチンのイメージです。業界にいる私達ももっとタイルの魅力を発信する必要がある。なにか打開策や良いアイデアがないかと思案していました。そんなときジブリパークの一部開園のニュースでジブリの大倉庫の映像が流れていました。どこのメーカーが作ったタイルで、誰が施工したのか。社内でも話題になりました。イン



▲会場となった大阪市中央公会堂

ターネットで調べてみると施工されたのは白石普さんという方で、自らタイルをデザインし、制作から施工まで一貫して取り組んでいると知りました。

社長が大阪タイル協同組合の理事長ということは知っていましたが、組合が具体的に何をしているのかまでは知りませんでした。ただ、講演会のようなことも行っているとのことだったので、白石さんに講演をお願いして建築士や設計士、学生さん、一般の方たちにタイルの魅力を知って

中集会室【メイン会場】

タイルディスカバリーツアー



▲メイン会場となった中集会室



▲小さなお子さんが墨出しにチャレンジ



▲土台となる下地（バサ）を作る



▲慎重にタイルカット



▲目地詰め作業に挑戦



▲5つの体験ブースを全てマスターするとタイル職人認定証が渡される

パートナー企画展示「タイルで未来を魅せんねん」



▲パートナー企業のブース展示



▲来場者への説明にも熱がこもる